

あ と が き

今年度、本校は創立140年を迎えました。また、一昨年になりますが、子どもたちが書き綴ってきている「こども」誌も100号となりました。この「こども」誌は、もともと本校の研究機関誌として昭和27年に創刊されたものです。次のように創刊のことばが書かれています。

「教育者にとって最も大切なことは、子供をほんとうによく理解することであるのは申す迄ありません。ところが、私たちはつね日頃あまりにも多くの子供達を見慣れているためか、とかくすると、子供に対するするどい感覚や驚きを失いがちになります。その結果、とらえているのは概念としての子供であって個々の具体的な子供でなかったり、今日の子供を昨日の子供で解釈したり、Aの子供をBの子供で理解する誤りにも陥ります。頭の中で、机上で考えた子供、或る法則に形式的にあてはめた子供にならぬ様に私たちは警戒せねばなりません。時々刻々と成長発達する子供の具体相を直視せねばなりません。」

目の前の子どもの実態や変容から、ともに学びを作り上げようとしていることは今も変わりありません。子どもに学び、子どもと学ぶ教師でありたいと思い、私たちは子どもの学びに誠実でありたいと願っています

子どもの変化に敏感でありたいと日々取り組みを重ね、そして、子ども自身が生涯にわたり、困難に遭ったときも自分で取り組むべきことを判断し、周りの人と関わりながら粘り強く追究し続け、解決する力を高めて欲しい。そう考えて日々実践に取り組んできました。

今回、実践を紀要としてまとめることで、子どもに育まれた力を子どもの姿で検証したいと考えています。真摯に誠実に取り組んできましたが、まだまだ未熟で拙いものです。今日まで、大勢の皆様からいただいたご意見・ご指導を糧に、今後も研究を進めていく所存です。多くの方々にご高覧賜り、ご教示、ご批正いただければ幸いに存じます。

副校長 池田 彦男